

「付けたい力」を効果的に付けるために 学習内容の系統性を確認しましょう



前号では、児童生徒が確実に力を付ける授業を計画するためには、児童生徒に「付けたい力」を明確にしてから、「学習活動」を設定することが大切であるとお伝えしました。今号では、「付けたい力」を効果的に付けるために、学習内容の系統性を確認して、授業づくりを行うことについて紹介します。

例 国語 単元名：古典に親しむ 教材：「『枕草子』春はあけぼの」

系統性を確認していないと…

どのような力をどこまで付けるかを意識しないで、「春はあけぼの」を書かせてしまうと…

小5 オリジナルの「春はあけぼの」を書きましょう。

おもしろそう！
「春は桜、夏は海」かな♪

中2 オリジナルの「春はあけぼの」を書きましょう。

小学校のときに学習したことと同じことをすればいいのかな？
「春は桜、夏は海、…」

児童生徒がどんな学びを積み上げて、今後どのような学びを展開していくのかを確認してから授業を行うことで、より主体的に学べる授業になります。

系統性を確認しておくこと…

小5 「春はあけぼの」の段を読んで、分かったことを参考にして、オリジナルの「春はあけぼの」を書きましょう。

季節ごとの4つのまとまりで書かれているな。すばらしいことと、気付いたことを書くといいな。「春は桜がすばらしい…。花びらが…」

本文を参考にして、自分なりの「春はあけぼの」が書きましたね。**中学校では、さらに他の段や他の作品を読む**と思います。古典の学びを深めていきましょう！

中2 『枕草子』の複数の段を読み比べ、感覚を大切にしながら、視点を明確にして、オリジナルの「春はあけぼの」を書きましょう。

作者は色彩の変化に興味があると考えているな。私は、自然の音に注目してみよう。「秋は風、夕刻に草木を揺らす風はあはれなり…」

小学校の時の学習内容を生かしていた人もいましたね。昔も今も変わらない感覚を取り上げた作品がありました。また、「現代は、趣があることが減った。」と振り返りで書いていた人がいました。

学習内容の系統性は、何で確認すると良いですか？

学習指導要領や解説で確認!!
学習指導要領に示されている各教科等の内容において、学年間の系統性や発展性が十分配慮されています。

また、学習指導要領解説には、学年間や校種間の系統性を踏まえた説明がなされています。



◆中学校第2学年 1〔知識及び技能〕 (3) 我が国の言語文化に関する事項
○伝統的な言語文化

小学校第5学年及び第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
イ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。	イ 古典には様々な種類の作品があることを知ること。	イ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ること。	イ 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと。

抜粋：『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』 文部科学省

学習内容の系統性を確認しておくことで、当該学年で指導すべき内容がより明確になります。また、小学校で学ぶことと中学校で学ぶことを関連付けることで、理解を深めることにつながります。

